

昭和村が楽しい！
からむしを上手に
引くのが今の目標。

よしむら ななこ

吉村 菜々子さん(20代)

<昭和村>

からむし織研修生
(研修生)

2021年 Iターン

からむし織に惹かれて昭和村へ

『着物の中で上布の最高級品として名高い「越後上布」は2009年にユネスコの無形文化遺産保護条約「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に登録されました。この糸は苧麻から作られることが特徴で、実はその原料である繊維は昭和村から越後に納められています。

昭和村が約30年前から実施している「からむし織体験制度(通称:織姫制度)」を利用し、28期生として村にきた吉村さん。体験終了後も村に残り、研修生として活動しています。昭和村の織姫になろうとしたきっかけ、昭和村での生活、そしてからむし織の仕事のことを道の駅しょうわの作業所をお借りして取材しました。』

取材日 2022年12月16日

移住のきっかけと仕事のこと

<移住のきっかけ>

大学生の時に就職活動をしていて、興味を持ってない仕事ばかりで困ったのが最初です。母から地域おこし協力隊の話をして、全国の活動を探してみました。私が興味を持ったのはこのからむし織と西日本で募集があった養蚕でした。育った地域に機織りの工房があって見たことがあったことや、糸とかモノを作ることが好きだったことが影響していると思います。

昭和村のからむし織体験生は仕事として織るだけでなく、からむしを栽培し、引く作業があって、糸にしていってしまうのが魅力として大きかったです。申し込みをして28期体験生として昭和村に移住しました。

<活動の内容>

1年目は体験生として共同生活をしながら、からむしの栽培と糸作りを主に体験します。基本は平日だけの作業となります。畑での作業は5月のからむし焼きから始まり、多年草なので種まきはありませんが、畑の状況を見て植え替えをする場合もあります。7月20日頃からお盆までは「からむし引き」という作業があります。合間をみて糸を作り、12月まで糸を作り終わって、3月半ばにある作品展に向けて課題品を作っていきます。

機織りには「高機(たかはた)」と「地機(じばた)」という2つの織り機があるのですが、1年目の作品は椅子に座って織れる高機で織っています。



夏の「からむし引き」は一大イベントです。時間が重要なため2~3週間ぶっ続けです。「作業中なんでこんな大変な仕事をしているのかと思うけど、終わると『来年はもう少し上手く、』という気持ちになる」と聞いていたのですが、その通りでした。

織姫制度は長く続いているので先輩がたくさんいます。いろいろ聞ける人がいるのはすごくいい環境ですし、目標になります。昔の人がやっていた作業を今の自分が出来ることに意義を感じています。

<昭和村の暮らし>

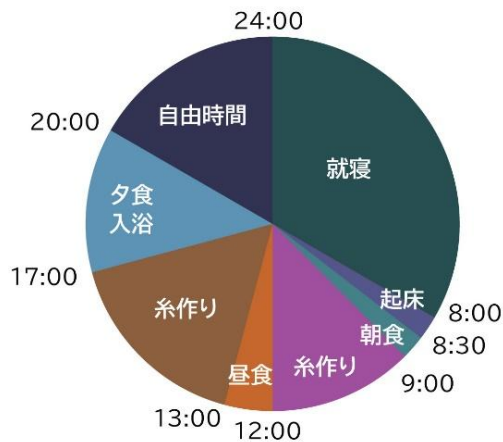
最初の1年目は同期の体験生と共同生活でしたが、2年目からは一戸建てを借りて自炊しています。村役場が運営している空き家バンクに登録をして、探してもらいました。昭和村では織姫が毎年来るので慣れていて、皆さんいろいろと声をかけてくれたり、お茶飲みにも誘われます。「お茶のみは断らないで行ってごらん」と最初に先輩に教えてもらいました。

村の人と仲良くなると稲刈りの手伝いをしてほしいとか声がかかります。先日は脱穀の手伝いもしました。あと、野菜をたくさんもらいます。野菜をもらうので



からむしの糸の話をする吉村さん

ある一日のスケジュール



料理をするようになりました。村内に無人の野菜販売所もあるんですよ。実家暮らしをしていた時には面倒だったことも今は自分でするようになりました。

雪ですが、思ったより降りますね(笑) さすが豪雪地帯という感じがします。雪のせいでたまに停電することがあるので、石油ストーブは必須だと学びました。こたつも必須ですね。

<昭和村の魅力>

昭和村は何をしても楽しいです(笑) よく村の人のところに遊びに行くんですが、どの方もエピソードが面白いんです。昔こんなことがあったとか、その内容が私には新鮮でとても興味深いんです。あと、昭和村で暮らしているって、かなり生きていく力が強いと思えることばかりです。例えば、今でも藁を編める人がいたり、ちょっとした大工仕事ならすぐにできる人たちが多かったり。お茶飲みのついでに、糸作りの道具を直してくれたり、皆さんすごくて、いい人ばかりです。お茶飲み文化は私にとっては必要な良い文化だと思います。村の中で“遊びに行く”と言ったら誰かの家にお茶飲みに行くことですね(笑)

それと、大家さんがすごくいい人なんです。野菜を持ってきてくれるだけでなく、「お皿持って来いー」と言われて持っていったらおかずを分けてもらったり、「こんなことあるんだ！」ってことばかり起きます。

私にとって昭和村の人と話が出来ること自体、魅力なんだと思います。

吉村さんの行動歴

宮城県生まれ ⇒ 宮城県の大学(自宅から通学)
⇒ 昭和村へ

移住を検討している方にアドバイス

冬が寒いので対策が必要です。
停電も稀にあるので石油ストーブは必須です。



からむし織のオブジェの下で

現住人口 1,174人 男性/569人 女性/605人

面積 209.46平方キロメートル

標高 海拔 466.8m(昭和村役場)

最寄駅 JR只見線「会津川口駅」

最寄IC 磐越自動車道「会津坂下IC」

保・幼・こ 認可保育所 1か所

小学校数 公立 1校

中学校数 公立 1校

高校数 なし(周辺の市町にあり)

病院数 診療所 1か所

村の特徴

会津地域の中でも山間部に位置し、人口1,100人ほどの小さな農山村である。「からむし織の里」として知られ、原材料となる高品質な「からむし」を生産している。また、宿根カスミソウも有名で、生産量が夏秋期日本一である。一見閉鎖的に見受けられるが、早くから都市から山村へ人の流れをつくるプログラムを実施しており、移住者に対して友好的な村である。

移住 サポート 窓口

昭和村役場(産業建設課)
昭和村ホームページ
<https://www.vill.showa.fukushima.jp/procedure/>
電話:0241-57-2124
メール:kankou@showavill.jp

